



# 施工ツールの販売に注力

（株）キヤル 代表取締役社長 **赤川喜和氏**

「複眼な視点を持って業務に組む」。 （株）キヤル（東京都新宿区新宿）代表取締役社長・赤川喜和氏の経営哲学である。

赤川氏は大学を卒業後、野原産業（本社東京、以下野原）に就職した。野原は1947年に東京・中央区で設立し、建設資材や都市環境事業を主要事業に展開する。同氏は入社から数年間は鉄鋼業務の営業、その後の15年間は交通安全標識資材を扱う都市環境事業に携わった後、栃木・那須工場長（兼都市環境事業部の副事業部長）を11年間務めた。

「那須工場は、安全標識を製造する部門です。モノづくりの作業工程が勉強になり、貴重な体験を得ることができました」と語る。現在、野原では常務執行役員都市環境事業部長の肩書きを持つ。

一昨年5月、同氏は野原と取引先のあった（株）キヤルの社長に就任。これは、野原の都市環境事業の民間分野拡大の一環でもあった。

「キヤルの前代表が亡くなった時、旧経営陣から今後の社員の将来が心配、野原で経営を引継いでいた



東京都出身。1954年生まれのA型。趣味はゴルフ（ハンデは9）とドライブ。座右の銘は「人間万事塞翁が馬」。自身の経営哲学である「複眼な視点」にも符合する。余暇はもっぱら読書に費やしている。

工及び販売を主要事業に創業。同氏が社長就任時に抱いた印象は野原、キヤルともに那須工場を構え、事業内容がとてユニークなことだ。「野原の標識製作工場はテレビ番組の製作スタッフがよく取材に訪れるほか、交通安全協会や国土交通省などが興味を持って見学に来ていました。一方、キヤルの工場は約1万平方メートルの敷地内に屋外大

だけないかと打診されました。当社でも重要な仕入れ先であるキヤルについて心配をしていたことから、キヤルの全事業を承継することになりました。いま、野原の100%出資子会社として都市環境事業の1社と位置づけています」。キヤルは、1984年10月に内照看板用パナグラフィックスの加

型検証昇降装置など、看板製作に欠かせない設備を多数所有しています」。パナグラフィックスの加工を主事業に展開してきた同社だが、昨年10月から注力しているのが、ドイツ・イエローツールズ社のフィルム施工ツールの販売。「当社は、長年マーケティングフィルムの販売・

加工を行ってきたが、施工ツールの販売は手がけてこなかった。フィルムを購入する製作会社は、加工時にツール類は欠かせません。そう思った時、米国の展示会で同製品と出会い、工場スタッフに実際に使ってもらおうと好評だったことで、イエローツールズ社と国内総販売代理店契約を結びました」。今年1月からは、同社の施工ツールを販売する通販サイト「CALネットストア」を開設。「イエローツールズ社が取扱う製品群は、245種類・540製品。フィルム貼りに欠かせないスキージーだけでも固さや角度、形状別に70種類あります。ネットストアでは、徐々に掲載数を増やしていきます」。

経営哲学に関しては、「物事には、必ず両面の見方があります。我々が正しいと思っていることも、一方では正しくないと考えられる人もいます。複眼の視点を持っていないと、マネジメントはできない」。従業員へのメッセージも明快に語る。「社員には興味を持って仕事に臨んでほしい。これは、視点の持ち方や、自分の考え方一つで変えていける。仕事が面白くなれば、結果として会社の収益も上がります。将来への展望も見出しやすくなります」。